

平成 24 年度

浄土寺町老人会会員のつどい

浄土寺町 ふれあいサロン

浄土寺町 敬老のつどい

昭和28年9月25日

台風13号による日野川堤防の決壊と教訓

あの時の悲惨な状況と

その貴重な体験を次世代語り継ごう

「前日からの降り続いた雨も、当日午後には一段と北風が強く、バケツをひっくり返したような雨が3時間ほど続いた」

夜10時「堤防が切れた」

**目の前を濁流が、家屋が流され、
人が「たすけて・・・」と叫びながら
流されていった・・・**

地獄であった

☆ 安心・安全なまちづくりを目指して

会員のつどいの開催状況

- 期 日 平成24年11月12日(月) 10時から12時
会 場 浄土寺町会議所
参加者 浄土寺町寿会(老人会)会員21名
方 法 当時の体験者より体験談を語ってもらうほか、
出席者よりも随時話してもらう

☆ あ と が き ☆

この記録は、日野川決壊という大惨事を体験された方々より、その体験談を話していただいた事柄を中心にまとめたものです。今回は初めてのこうした場を設定しましたので、会員皆さんにはもっと話したい事や60年程前の出来事であり、記憶が薄れて若干事実とは異なる発言もあったかとも思います。

しかし、今回誰がどのような話をしたということよりも、会員が60年前に体験した記憶を辿りながら、その体験をした者、体験を聞いてきた者、初めて聞く者、それぞれ違いがありますが、みんなで話し合う機会ができた事に意義があったと思います。

このことを大切に、安心して安全な住み良い町内にしていくため、今後も、またこうした機会をもちたいと思いますので、その後においてお気づきの事項があれば記憶にとめておいてください。

ご協力ありがとうございました

記 録 平成25年2月
浄土寺町寿会(老人会)

「主な内容」・・・当日の話し合いの内容を要点筆記したものです

1. 台風 13 号による日野川堤防決壊以前の日野川に対する対応や地元の認識について

堤防決壊に対する危険度に係る認識（決壊以前の状態）

以前より大雨の時には避難していたのか・・・避難時の様子は

☆ 明治 29 年にも日野川堤防が決壊しており、1 度あることは 2 度あると親から聞かされており、今回決壊した場所は大変危険であり大雨の度に、村中が警戒していた。

☆ 今回の決壊箇所は、「以前に漏水した時には馬淵村より土盛で水漏れを止める程度のいい加減な改修がされた」と親から聞かされており、大雨の都度警戒していた。

☆ 大雨の度に堤防に見に行っていた。

☆ 年に 1 回程度は大雨が降り、その都度、西出（第 3 組）の住民は、山手の家へ避難していた。このことは、堤防の決壊の後も数年間続いた。

2. 当時は、どのぐらいの量の雨が降ったのか・・・雨の降り方

☆ 前日の 24 日から雨は降った。北風が 25 日の朝より強く吹いていて、雨は 25 日には更に強く降り続き、当日開催の「早生湯」は毎年天神社拜殿で行うが、当日は雨が強く会議所で神事が行われた。早生湯(神事)は、2 時過ぎに終了し、その後各戸 1 名が会議所に警戒の為詰めた。

☆ 特に 25 日の 14 時頃からは北風が大変強く、雨のバケツをひっくり返したような、今までにない桁外れの強い雨が 3 時間ほど続いた。

☆ 堤防の下の道路は、ぶかぶかで近寄れなかった。

☆ 日野川は、北風と大雨が一番恐ろしい。

☆ お地藏さんは沈んだ。近年はお地藏さんが沈むようなことは無いが、決壊前後は良くあった。その都度避難した。

3. 当日は、どのように避難したのか、また、当時、堤防の決壊は予測できたのか

当時の町内の体制について（自治会役員や消防団の方々は）

避難の指示や避難の様子について

- ☆ 強い北風とバケツをひっくり返したような雨が続いたので、午後 4 時か 5 時ごろには、日野川堤防が決壊するのではないかと予測された。
- ☆ 町内各家 1 名は、16 時より会議所に詰めるように連絡があったので、会議所に詰めた。
- ☆ 堤防への見回りは 3 人程度が行った
- ☆ 堤防への見回りの人は堤防が決壊の恐れがあるときは、手で明かりを回し、連絡するようになっていた。
- ☆ 当時農耕用に飼っていた牛は、早くに山手に避難させた。
- ☆ 親は、今回の雨の降り方を見て、「もうだめだ、堤防が決壊する」と言って、畳を台に上げた。
- ☆ 前年（昭和 27 年）の 6 月には自宅の裏山が崩れ、土砂が家にも流れてくる被害を受けた。山も危険で恐ろしかった。山が崩れる場合の雨の降り方は、堤防の決壊の場合と異なり、長い期間雨が降ると山は危険であり、特に 6 月の梅雨時が危ない。
- ☆ 家の始末は、以前から大雨の度に床を上げており、床は作業をし易くするため「薄床」にしていた。
- ☆ 当日は、山手の家(2 組)の親戚の家に子どもや老人は午後 6 時頃には避難した
- ☆ 避難は、最初は山の手(市道沿い)の各家へ、決壊後は、山道(高台)の家や寺に移動した。

4. 決壊したとき、自分は何をしていたのか、決壊時の町内の様子について

- ☆ 新巻は午後 8 時ごろ決壊した
- ☆ 浄土寺の決壊は 9 時 50 分頃であった。
- ☆ 会議所に町内の人と共に詰めていた時、堤防へ見回りに行っていた 3、4 名の人から、明かりを手で振っているのが見えた。
- ☆ 明かりを手で振ったら「堤防が決壊する」ということが事前に決めていた。
- ☆ 明かりが振られるのを会議所で確認した後、15 分程度で堤防が決壊した。
- ☆ 決壊直前に堤防の下に見回りに行ったが、足がぶかぶかと沈むので、これは危ないと直感し急いで逃げて帰った。逃げる途中、とても自宅には辿りつけないので、山手のほうへ一目散で逃げた。山手に辿りついたとたんに堤防が決壊し、後ろから濁流が押し寄せてきた。
- ☆ 避難場所(山手の家)で、「堤防が決壊したと」聞いた。外は雨止んで、月夜であ

った。会議所の方が白く見えてきた。直に目の前を水が流れてきて、しばらくしたら、面の前を人が「たすけてくれ・・・」と叫びながら流されていった。

☆ 私は、山の手の家、幼い我が子を背負いながら避難した。

☆ 家の庭先で見たら、直に水が流れてきた。私の夫は庭先の手前を人が流されていくのを見て助けるため濁流に入ったが、自分も庭先より 100 メートル程流されたところで無事に人を助ける事が出来た。(後に知事より感謝状を授与された)

☆ 自分の家は山手にあるが、家に水が入ってきたので、山道(高台)の家に逃げた。床を上げようとしていたら水が引いた。下駄箱は水に浸かり、履物が家の中で散乱した。

☆ 私の家は山道(高台)に面しており、早くから子どもさんが非難していた。濁流に流された旅芸人(役者)が、助けられてずぶぬれの格好で家にきた。私が嫁入り時に持ってきた着物の全てを提供し、また、布団も同時に提供した。

☆ 重症の人は、私の家に医者が来て手当を受けた。

☆ 町内の多くの方は、私の家からその日のうちに寺に移動した。

☆ 決壊した時は月夜であった。自分も山手の家に避難していたが、しばらくすると水が引いたので家に帰った。自分の家には水は入らなかった。

☆ 自分は小学校の低学年であったが、当時、山手の家に避難していたが、その家の庭先から外を見ていた。会議所のほうに急に白く見えた。しばらくして目の前を水が流れてきて、直に、人が流されて行く姿を今でも記憶している。翌日、自分の家が流れる水の中にあるのを見届けほっとした。

☆ 翌日の午後、流れる水の中(流れは強かったが)を自宅に帰った。家の中は流されてきた物が散乱していた。

☆ 自分は消防団員であった。翌日は亡くなった人の通夜を行い、町内の埋葬地に 5 人(+1 人)埋葬した。

☆ 私は、まだ子どもであったが、家の上に乗って流されていく人を見た。祖母が寝たきりでいたので、祖母を戸板に乗せて山道(高台)の家に避難させた。

☆ 当時、私は浄土寺の下の集落に住んでいたが、浄土寺の堤防が決壊したことを知った。自分の集落も日野川に近く決壊の恐れがあり、町内の人は堤防で火を炊き警戒していた。浄土寺が決壊してよかったと思った。

☆ 水害の以前に浄土寺へ手伝いにきたことは有るが、当時の事はあまり記憶が無い。

☆ 翌日に、山を越えて浄土寺を見にきた。源次さんの家が流されて無くなっていた。又、山手に牛が繋がれていた事を覚えている。

5. 決壊後の復旧にかかる取組みについて

家のこと 農地のこと など

☆ 田んぼには、土砂が多く入り、その年の飯米の確保に苦労した。砂利だしには親戚の人の手助けを受けた。

☆ 埋まった土砂は各田んぼの一角に山積みした。数年程度をかけて、水害で大きく掘れ穴になったところに土砂を運び埋めた。

☆ ゴム車の長台にトロッコのような木箱を 2 個乗せ、そこに土砂を積んで、牛に引かせて運んだ。

☆ 新巻の鍛冶屋さんに作ってもらった「ジョウリン」で、田んぼに埋まった土砂をすくって山に積んだ。

☆ 土砂を「モッコ」でにない、田んぼの一角に積んだ。

☆ 決壊した周辺の田んぼは、田んぼに大きな穴があき、翌年も田植えが出来なかった。

☆ 私は 20 歳ぐらいのとき、浄土寺に手伝いにきた。田んぼに埋まった土砂を取り除く仕事である。牛の鼻もちをした。その後ここに嫁いだ数年間は仕事がきつく地獄が続いた。

☆ 当時青年団の一員として、お手伝いにきたことを覚えている。

6. 決壊後において、大雨が降った時の避難や対策について

避難の予知 堤防で火を炊くこと・・・

避難場所・・・家の片付け・・・

☆ その後は、大雨ごとに床を揚げ、家の片付けをして、度々寺へ避難した。

☆ 堤防が決壊しそうな時は、町内各戸より割り木を集め、堤防で火を炊いた。これは「魔除け」でもあった。

☆ 新巻の横土手が決壊すると、日野川の水が真直ぐに浄土寺の今回決壊したところにあたるので、特に警戒していた。(水位の差が大きい)

☆ 浄土寺に転居して 10 数年が経過するが、水害のあった事は全く聞かされていなかった。浄土寺町は「生活するには良いところである」と聞いていた。

7. 今の日野川の現状をどのように思っておられますか。また、このことだけは後世に伝えておきたいことについて(要望) (参加者全員の声)

- ☆ 北風が強く3時間大雨が続くと、日野川は大変危険である。
- ☆ 日野川はまだ改修がされておらず、近年大きな大雨が無いのでよいが、安心は出来ない。
- ☆ 危ないと言われたら、直ちに避難する事である
- ☆ 日野川の対岸に土砂が堆積し、狭くなり、浄土寺町側が大きくえぐれている箇所がある。早急に改修して欲しい。
- ☆ 年々住民の老齢化が進んでおり、誰もが安全にスムーズに避難できる安全な場所を決めて欲しい。
- ☆ 若い人たちに日野川決壊時の体験や近所同士の話し合いを進め、協力体制を整えるべきである。
- ☆ 避難訓練をする必要がある
- ☆ 危機管理が希薄となっている。最近、警戒警報が出ても、会議所に自治会役員が詰めていない。
- ☆ 想定外のことが最近全国各地で起きている。自治会は予期せぬ事を考え、絶えず準備しておく必要がある。
- ☆ 安全対策について、地元の声を大きくして行政機関に伝えていく必要がある。
- ☆ 自然に恵まれ住み良い環境にあるが、山と川に挟まれており、想定外のことがあれば、大変危険な地域であり、絶えず町内住民は警戒感を忘れてはならない。